

contents

プレコンセプションケアを始めるなら……………	1
「性教育と緊急避妊薬に関する意識調査2026」 から見えた課題……………	7
"めぐみ"を生きる ⁽²⁸⁾ ……………	11
多様な性のゆくえ ⁽¹¹⁾ ……………	12

性教育NEWS BOX④……………	13
今月のブックガイド……………	14
資料室新着図書……………	15
JASEインフォメーション……………	16

プレコンセプションケアを始めるなら

岡山におけるプレコンセプションケアの経緯

岡山大学学術研究院保健学域教授／同大学生殖補助医療技術教育研究（ART）センター教授
同大学大学病院リプロダクションセンターセンター長／同大学ジェンダークリニック医師

中塚 幹也

プレコンセプションケアとは？

「プレコンセプションケア」とは、プレ（pre：～の前の）、コンセプション（conception：受胎）との造語であり、「妊娠前の健康管理」とも訳される⁽¹⁾。2006年に米国疾病予防管理センター（CDC）が、また、2012年に世界保健機関（WHO）が提唱したものであり、「子どもを持つかどうかに関わらず、全ての人の健康にとって重要」としているものの、「短期的・長期的な母子の健康アウトカムを改善する」としている。このため、「糖尿病女性が血糖管理をしたうえで妊娠に臨む」などの医学的な意味で使われることが多かった。

「卵子老化の衝撃」と妊孕性啓発

一方、2008年には「Around40 アラフォー白書」⁽²⁾、

「そろそろ産まなきゃ 出産タイムリミット直前調査」⁽³⁾が発刊され、年齢と妊孕性（妊娠しやすさ）との関係が一般にも意識され始めた。2012年にはNHKクローズアップ現代「産みたいのに産めない：卵子老化の衝撃」が放映され⁽⁴⁾、2013年には「卵子老化の真実」が発刊された⁽⁵⁾。

2012年、岡山県不妊専門相談センター（後述）では、第7回不妊・不育ところの研修会を開催したが、そのテーマは「卵子の老化を取り巻く事情」であった（図1）。2010年にNHK首都圏ネットワークで放映された「ミドルエイジクライシス：いつかは生みたい」の制作を担当し、日本人薬剤師が渡米して卵子を凍結保存するのに同行取材し



図1 第7回不妊・不育ところの研修会「卵子の老化を取り巻く事情」(2012年岡山県不妊専門相談センター)

た牧本真由美記者にも登壇いただいた。

「卵子の老化」と妊孕性啓発の動き

2010年、文部科学省は男女共同参画社会の推進のための「女性のライフプランニング支援」として、子どもたちに、結婚、妊娠、出産といったライフイベントを視野に入れた働き方・生き方の選択を促すとした。

しかし、私たちが2011年に実施した大学生への調査では、「女性は50歳以上でも妊娠可能」との回答は36.6%、「60歳以上でも可能」も5.4%であり、ライフプランを立てるうえで、まずは年齢と妊孕性との関係を知る必要があると考えられた。このような状況下で、健康な女性が、妊娠に向けて適切な知識をもち、自身の健康管理をするという「プレコンセプションケア」を考える必要性が生まれてきたのである。

一方、2013年には政府が「30代後半になると女性は妊娠しにくくなる」等の知識を盛り込んだ「生命(いのち)と女性の手帳(仮称)」を若い女性に配ることを計画したが、「国が個人の生き方へ介入するのか」等の批判があり撤回する事態となっている。2015年になり、内閣府は「少子化社会対策大綱」を見直し、妊娠や出産等に関する医学的・科学的知識をもつ割合を高めるとし、文部科学省も改訂版「健康な生活を送るために(高校生用)」⁽¹⁾を作成し、妊娠と年齢の関係や不妊症について記述した。

岡山県不妊専門相談センター 「不妊・不育とこころの相談室」開設

1990年代後半以降、不妊治療が少子化対策に位置付けられたこと、また、不妊治療を受ける人の増加に伴う相談ニーズが高まったことで、一部の自治体が独自に不妊相談窓口の設置を始めていた。厚生労働省が全国の都道府県に、2004年度までに不妊専門相談センターの設置を求めたこともあり、岡山県からの依頼で、2004年、岡山大学病院内に不妊専門相談センターを開設した⁽⁶⁾。

このとき、「不妊症」のみではなく「不育症」にも対応すべきと考え、別称を「不妊・不育とこころの相談室」とした(図2)。また当時、私たちは県内各地で出張相談会も開催し、住民を対象に「妊孕性」「生殖



図2 岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育とこころの相談室」のチラシ

医療」「流産」などをテーマとしたミニ講演会を行っていた。

2017年には、不妊症に比較して認知度が低くメンタルケアを受けにくい「不育症」の啓発の意味を込めてリーフレット「流産で大切な子どもを亡くしたあなたとご家族へ：あなた・家族・周りの人々が前に進むためにできること」を作成し、岡山県内の産婦人科や保健所等で流産をしたカップルへの配付を続けている(図3)。

生殖医療に関して、子どもに何を話すのか

2006年頃から、私も大学病院で生殖医療を担当する産婦人科医として、高校生への性教育の中で、性感染症や避妊法を教えるのと同様に「年齢と妊娠」「生殖医療」などの話もしており、妊孕性の認知度の低さを感じていた。

私たちは、2011年から現在まで科研の研究で、大学生、一般人、産婦人科医等への調査を経時的に実施してきており、妊孕性の知識、また、健康な女性の卵子凍結保存や精子：卵子提供などへの意識を明らかにしてきた。その成果として、妊孕性や生殖医療を取り巻く倫理的・社会的課題に関して、子どもと話すことができるような教材(次ページ図4)を作成し、高校生や大学生、養護教諭などに配布した。また、報道や論文を通じて、さらにはSNSやWEBサイト「生殖とジェンダーの今」等で発信している⁽⁷⁾。



図3 「流産で大切な子どもを亡くしたあなたとご家族へ：あなた・家族・周りの人々が前に進むためにできること」



図4 「続・騒がしい精子と卵子 子どもと話したい生殖医療」(2017年)
(2014年の「騒がしい精子と卵子」の意識調査のデータを更新)

ライフプランを考えるあなたへ
未来への選択肢→

↓知っておきたいシリーズ①～④



図5 妊孕性啓発用の教材(2017年)「まんがで読む未来への選択肢」、パンフレット「知っておきたいシリーズ①～④」、動画教材「リプロトーク」

岡山県における妊孕性啓発のはじまり

岡山県では他の自治体に先駆けて、2014年、「妊孕性等普及啓発標準プログラム」等作成事業を開始した。岡山県不妊専門相談センターを運営していたこともあり、岡山大学大学院保健学研究科が委託を受け、マンガ本、各種のパンフレット、YouTube 動画などの教材を作成した⁽⁸⁾。

マンガ教材では、年齢と妊娠しやすさ、妊娠の成立、生殖医療を取り扱うとともに、早くも「卵子凍結保存」をしていた40代の女性が登場する(図5)⁽⁸⁾。

不妊症の原因となりうるクラミジア感染症、子宮内膜症、多嚢胞性卵巣症候群はもちろんのこと、風疹ワクチン、たばこの害、思春期やせ症、デートDVなど、多様なプレコンセプションケアの内容を含んでいる。また、リーフレット「知っておきたいシリーズ」として、①「いのちのはじまりの旅」、②「年齢と卵子や精子の関係」、③「妊娠・出産 子育て事情」の



図6 プレコンセプションケア啓発用パンフレット(右)とWEBサイト「未来への選択肢」(左)

3種類を作成。また、岡山県不妊専門相談センター独自でも、④「今のうちに知っておこう! 出生前検査」を作成した⁽⁸⁾。さらに、大学生たちが将来について語るYouTube 動画「リプロトーク: 未来について考えよう」を制作し、その中で妊娠、出産・子育て、生殖医療などとともに、デートDV、性的マイノリティ(LGBTQ+)、卵子の凍結保存などの話題も取り上げている⁽⁸⁾。

岡山県は並行して、中学校や高校で教材を使用して実施する「未来のパパ&ママを育てる出前講座」の講師を募集し、講師である助産師、産婦人科医、養護教諭などへの養成・フォローアップの研修会を開始した。現在も、年間、20～30の中学校や高校等で3,000～5,000人の生徒に対する妊孕性啓発の活動を続けている。しかし、県内の全ての生徒に情報を届けることは困難という課題があった。

全ての中学・高校生にプレコンセプションケアを

岡山県は、2023～2024年度「妊孕性等普及啓発標準プログラム」等作成事業を実施し、これまでの各種教材をまとめてプレコンセプションケア啓発用のパンフレットを作成し、岡山県内の全ての高校生、中学3年生に配付するとした。子どもが1人で、あるいは、保護者と一緒に情報に触れることを前提に作成を、また、学校で授業の中でも活用できる教材にもなるようにとの依頼であった。

このため、パンフレットの作成のみではなく、それに連動したWEBサイト「ライフプランを考えるあなたへ——性と妊孕性の視点から見つめる——『未来への選択肢』」も開設した(図6)⁽⁸⁾。プレコン・チェック

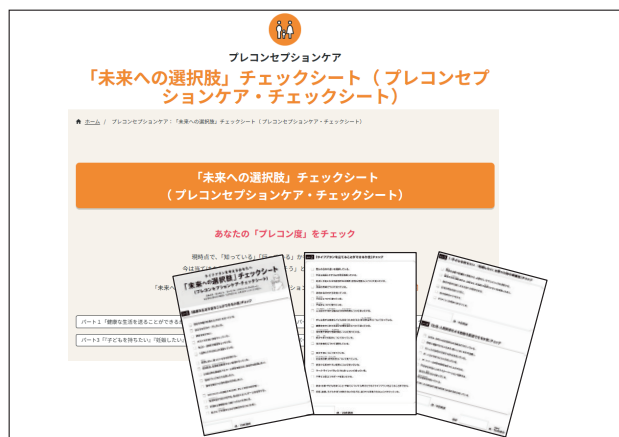


図7 プレコンセプションケア啓発用
WEBサイト「未来への選択肢」プレコン・チェックシート



図8 プレコンセプションケア啓発用
WEBサイト「未来への選択肢」ライフデザインシート

シート（図7）や100問ドリル、自身の未来を可視化するライフデザインシート（図8）を作成できるページもある。

プレコンセプションケア推進5か年計画

2025年、政府はこども家庭庁を中心に「プレコンセプションケア推進5か年計画」を策定し、若年者が、妊娠・出産、さらに、それに関連する性や健康の課題についての適切な知識を身に付け、ライフプランを立て、健康管理ができることを目指している⁽⁹⁾。

具体的な数値目標が書き込まれており、若い世代のプレコンセプションケアの認知度を80%以上に引き上げるとしている。ちなみに、2024年に私たちが実施した大学生への調査では「『プレコンセプション

ケア』とは、将来、子どもを持つ可能性を考えて健康に向き合うことである」ということを知っていたのは10.2%と低率であった⁽¹⁾。

また、自治体・企業・教育機関等において、性や健康に関する正しい知識の普及を図り、健康管理を行うよう促す「プレコンサポーター」を全国で5万人以上養成する。自治体は、プレコンセプションケアに関する相談窓口の認知度を100%にすること、経済産業省の調査等に回答するような企業のうちの80%がプレコンセプションケアに関する何らかの取組を実施すること、教育機関等の100%がプレコンサポーターによる支援を受けられることを目指す。さらに、専門的な相談ができる医療機関を200施設以上に増やすとしている。

プレコンセプションケアは誰のため？

2018年、文部科学省は内閣府と厚生労働省と連携し、「高校生のライフプランニング」という教材を作成しライフプラン教育を推進しており、「共生社会とは、性別や国籍の違いや障害の有無にかかわらず、多様な人々が対等な立場でお互いを尊重し、支え合って共に生きていく社会」であるとしている⁽¹⁾。

しかし、「ライフプラン教育を推進する」「プレコンセプションケアを啓発する」といった場合、その対象は多数派（マジョリティ）の子どもが想定されていることが多い。性的マイノリティ（LGBTQ+）の子ども、障害を持つ子ども、小児がんやAYA（Adolescent and Young Adult：思春期・若年成人）世代がんの人々など、少数派（マイノリティ）の人々への視点は不足している。

LGBTQ+の子どもとプレコンセプションケア

文部科学省は、2010年に事務連絡、2015年には通知を発してLGBTQ+の子どもへの支援を求め、学校での対応が始まった⁽¹⁰⁾。最近の教科書では「LGBTQ+」「同性パートナーシップ」などの記述も増加している。しかし、LGBTQ+の子どものライフプラン、とくに「子どもを持つこと」についての教材は見られない。

前述のマンガ教材「未来への選択肢」(2014年)の中でも、当時の県との協議でLGBTQ+の子どもが登場することはなかった。このため私たちは、2018年、LGBTQ+当事者の家族形成を含めたマンガ本「未来



図9 「まんがで読む 未来への選択肢 拡大版」第2版
心の性は男性。身体性のトランスジェンダーの主人公は、悩んだ末に…

への選択肢（拡大版）」を作成、拡大第2版(2019年)（図9）には、トランス男性が結婚し提供精子で子どもを持つというストーリーも加えた⁽⁸⁾。また、小・中学生向けの本「個性ってなんだろう？ LGBTの本」(図10)の中でも、LGBTQ+当事者の結婚や子どもを持つことに関する世界の状況について紹介した⁽¹¹⁾。

このような教材は、LGBTQ+の子どもが未来に希望をもつ契機となり、さらには、高率である自殺念慮、うつ、不登校などを予防する可能性がある。また、全ての子どもにとっても「生きやすい社会とは何か」を考える契機になると考える。

小児・AYAがんの人々とプレコンセプションケア

子宮頸がんとHPVワクチンの知識は、ライフプランを考える上で重要である。また、BRCA-1またはBRCA-2遺伝子に変異（日本人の約200～500人に1人とされる病的バリエーション）があり、乳がんや卵巣がんが発症しやすい遺伝性乳がん・卵巣がん（Hereditary Breast and Ovarian Cancer: HBOC）についての知識も重要である⁽¹⁾。

さらには、実際にがんを経験した子どももいる。小児がん全体で見ても85%以上が治癒するとされるが、がん治療は卵巣や精巣の機能を低下させ、ライフプランに大きく影響する。がんと診断されてから、化学療法等を開始するまでの短期間に、保護者や子どもに、将来の妊娠・子どもを持つ可能性を残すこと（妊孕性・生殖機能温存）を理解してもらえるかは、臨床では重要であるが、これには、もともとプレコンセプションケアの知識を持っているかどうかの影響する。



図10 『個性ってなんだろう？ LGBTの本』
(あかね書房 2018年)
LGBTQ+当事者の結婚や子どもを持つことについての章も



図11 LGBTQ+当事者の家族形成に関する公開シンポジウム
2026年度のテーマは「LGBTQ+の子どもとプレコンセプションケア」

臨床の現場では、がん患者や家族に対しては各種のパンフレット等を作成して利用してもらっている⁽¹²⁾が、私たちのプレコンセプションケアの教材やWEBサイト「未来への選択肢」の中でも「がん生殖」を取り上げている⁽⁷⁾。

全ての子どもがライフプランを立てられる社会に

2025年2月に、国会に提出された特定生殖補助医療法案は、提供精子・卵子による生殖医療を認める重要なものであったが、それらの利用は法的な夫婦に限定しており、罰則規定を設けた⁽¹⁾。レズビアンやアセクシュアル（無性愛）女性など、婚姻せずに提供精子による人工授精（Artificial Insemination with Donor's Semen: AID）により子どもを持つ例は少なくないが、これを禁止することで医療施設が関与できなくなり、リスクの高い「SNS上での精子の取引」などが増加することが懸念された⁽¹³⁾。LGBTQ+当事者のプレコンセプションケアを考える上で、第三者の関与する生殖医療や養子縁組や里子・里親の制度が平等に享受できる社会であることが必要である。全ての子どもの「性と生殖に関する健康と権利（SRHR）」が守られる社会になるためには、国民の理解拡大と法律や制度の整備が必要である^(14,15,16)。このため、私たちは、毎年、公開シンポジウムを開催し議論を続けており、2026年度のテーマは「LGBTQ+の子どもとプレコンセプションケア」である（図11）。

岡山での愛育委員の取り組み

愛育委員は、乳幼児から高齢者まですべての住民にとって健康で明るく住み良い地域にするために行政と協力

しながら活動している健康づくり市民ボランティアである。現在、岡山県の備前保健所管内の愛育委員連合会による中学生へのプレコンセプションケアの取組が始まっている。保健所はプレコンセプションケアに関連するパネルを作成し、愛育委員が「赤ちゃん登校日」で中学校を訪問するときに使用し、パンフレットとしても配布できるようにした。この取組は、好事例として、こども家庭庁のWEBサイト「はじめよう プレコンセプションケア」の中でも取り上げられている⁽¹⁷⁾。

誰がプレコンセプションケアを進めるのか

プレコンセプションケア推進5か年計画を実現するには、自治体が中心となって、教育の場である学校や就労の場である企業が、医療と連携してプレコンセプションケアに取り組む体制をつくることが求められる⁽¹⁸⁾。その中で、大学、とくに医療系大学の職員は、子ども向けの教材作成のみではなく、サポーター向けの教材作成や研修会の講師養成という形で下支えをする役割がある。岡山の愛育委員の取組のように、全ての市民の協力が必要である。

また、産後の健康と次回の妊娠・子どもを持つことに向けての健康管理（インターコンセプションケア）としても、医療施設での健康管理のみではなく、地域での精神支援や望まない（予期しない）妊娠への対応などが重要である。これにも、岡山県で構築している「妊娠中からの気になる母子支援」連絡システム（岡山モデル）のような地域ぐるみの取組が有用である⁽¹⁹⁾。

【参考文献】

- (1) 中塚幹也：特集Ⅰ 生殖補助医療のあり方と当事者・医療者の声 7。子どもたちへのライフプラン教育。ジェンダー法研究第12号。浅倉むつ子、二宮周平、三成美保編、信山社出版、東京都、pp.83-91、2025。
- (2) 吉田みか：Around40 アラフォー白書。毎日新聞社、東京都、2008年。
- (3) 三浦天紗子：そろそろ産まなきゃ 出産タイムリミット直

- 前調査。阪急コミュニケーションズ、東京都、2008
- (4) NHK クローズアップ現代：産みたいのに産めない 卵子老化の衝撃、2012年2月14日初回放送
- (5) 河合蘭：卵子老化の真実。文藝春秋、東京都、2013
- (6) 岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育とこころの相談室」(URL 下段参照)
- (7) 中塚幹也：Yahoo! ニュース・エキスパート・中塚研究室「生殖とジェンダーの今」(URL 下段参照)
- (8) 岡山県妊孕性等普及啓発標準プログラム等作成事業：未来への選択肢 (URL 下段参照)
- (9) プレコンセプションケアの提供のあり方に関する検討会：プレコンセプションケア推進5か年計画、2025年5月22日。(URL 下段参照)
- (10) 中塚幹也：封じ込められた子ども、その心を聴く：性同一性障害の生徒に向き合う。ふくろう出版、2017年。
- (11) 中塚幹也：個「性」ってなんだろう？ LGBTの本。あかね書房、2018年。
- (12) 岡山大学病院リプロダクションセンター。(URL 下段参照)
- (13) 中塚幹也：SNS上での精子取引が急増!! 第2次ブームの背景とそのリスクは？ Yahoo! ニュース・エキスパート (URL 下段参照)
- (14) 中塚幹也：LGBT当事者とリプロダクティブ・ヘルス／ライツ。法律時報96：61-64、2024。
- (15) 中塚幹也：LGBTQ+の子どもたち～多様な性を知ろう～：これからのLGBTQ+の子どものライフプラン～生殖医療による家族形成を中心に～。チャイルドヘルス27：51-54、2024。
- (16) 中塚幹也：LGBTQ+当事者と生殖医療。日本性科学会雑誌44、2026（印刷中）。
- (17) こども家庭庁：はじめよう プレコンセプションケア：岡山県備前保健所：地域住民と共に進める。(URL 下段参照)
- (18) トーマツ：性と健康の相談支援に向けた手引書。各ステージに応じた切れ目のない支援の提供。事例K：岡山大学。令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「プレコンセプションケア体制整備に向けた相談・研修ガイドライン作成に向けた調査研究」pp.93-100、2022。(URL 下段参照)
- (19) こども家庭庁：健やか親子21 内閣府特命担当大臣表彰：「妊娠中からの気になる母子支援」連絡システム（岡山モデル）による虐待防止。2023年（URL 下段参照）

(6) <https://www.cc.okayama-u.ac.jp/~funin/index.html>

(7) <https://news.yahoo.co.jp/expert/authors/mikiyanakatsuka>

(8) <https://miraihenosentakushi.jp/>

(9) https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/355db5bf037d4d17-bd25-d1382da80d5f/4b48d6d0/20250522_councilspreconception-care_01.pdf

(12) <https://www.okayama-u.ac.jp/user/repro/>

(13) <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/0ce4e10f5f5cf0888ba5c2d0eb3a4096f7620df7>

(17) <https://precon.cfa.go.jp/jirei/detail/jirei-okayama-bizen/>

(18) https://sukoyaka21.cfa.go.jp/media/tools/s06_pre_tebi001.pdf

(19) https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/f431dd5b-f405-4aa6-a8cf-e57ac74ca964/6342675c/20231108_councils_sukoyaka21_rc4qAgfm_04.pdf
いずれも2026年7月確認

若者・保護者が求める性教育とは

「性教育と緊急避妊薬に関する意識調査 2026」から見た課題

NPO 法人ピルコン理事長 染矢明日香

はじめに

NPO 法人ピルコンでは、2026 年 1 月、公益財団法人ジョイセフの協力のもと、全国の 10 代から 60 代の男女 5,000 名を対象に「性教育と緊急避妊薬に関する意識調査 2026」を実施した（図表 1）。本調査は、学校で受けた性教育の経験や満足度、現在重要だと考えられている学習内容、性に関する情報源・相談先、学習指導要領における、いわゆる「はどめ規定」や包括的性教育への認識、さらに緊急避妊薬への意識を把握することを目的としたものである。また、若者世代（15 歳～24 歳）、保護者（子ども有）に分けて全体との比較分析を行った。

性教育をめぐるのは、近年、子ども・若者を性暴力から守る教育、性的同意やデジタル社会における安全、予期せぬ妊娠や性感染症の予防、ジェンダー平等や性の多様性など、扱うべき課題が広がっている。一方で、学校現場では、学習指導要領の記載や保護者・地域からの反応への懸念、教員研修や授業時間の不足



などを背景に、必要な内容を十分に扱いにくい状況もある。今回の調査からは、学校で実際に学んできた内容と、若者や保護者が現在必要だと考える内容との間に明確なギャップがあることが浮かび上がった。本稿では調査結果の概要と、そこから見える今後の課題を整理する。

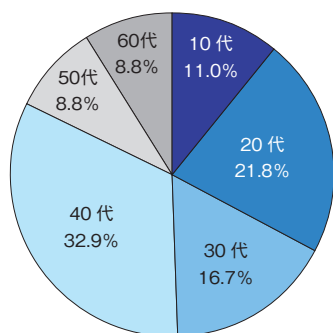
学校における性教育の満足度は低く、幅広い教育へのニーズも

まず、学校で性教育を受けた記憶については、全体では「受けた」と回答した人が約 4 割であった。若者世代では約 6 割と比較的高く、近年、学校で何らかの性教育を受ける機会は増えてきている可能性がある。しかし、学んだ内容への満足度を見ると、「満足」と回答した人は 18.0%にとどまり、「不満」と回答した人が 24.9%とこれを上回った。「どちらともいえない」が 57.1%と最も多く、性教育を受けた経験があっても、それが十分であった、実生活に役立つ内容であったとまでは感じられていない実態がうかがえる。

では、学校でどのような内容が学ばれてきたのか。調査では、「学校で学んだ内容」として「体の変化・思春期」「性器・性機能」「妊娠・出産」が上位に挙がった。これは、日本の学校性教育がからだの発達や生殖のしくみに関する知識を中心に組み立てられてきたことが背景にあると考えられる。

図表 1 回答者の年齢と年齢分布 有効回答数：5,000名

1. 若年層／高校生／15～18歳	400名
2. 若年層／大学生・社会人／18～24歳	800名
3. 保護者層／30～49歳	1,600名
4. 一般市民／20～69歳※	2,200名



※ 20 歳から 5 歳刻みで、別途割付し、220 サンプルを均等に回収。

→若者世代（15～24 歳）、保護者（子ども有）について、それ以外の層と比較分析。

図表2 Q. 次の項目について、(1) 学校で学んだ内容 (2) もっと知りたかった内容 (最大上位3つ) (3) 今、重要だと思う内容 (最大上位3つ) について、それぞれ当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

			体の変化・思春期	性器・性機能	妊娠・出産	避妊	中絶	性感染症	性的同意・性暴力	ジェンダー平等	性欲との向き合い方	性の多様性	恋愛	インターネット・SNSの使い方	性についての相談先	特になし・覚えていない
			n=													
内容 (%)	学校で学んだ	5,000	59.3	43.5	42.1	27.4	17.0	24.5	13.8	12.0	8.8	11.4	11.0	14.5	9.8	35.8
	当時もっと知りたかった	5,000	13.9	11.5	14.2	16.2	7.4	10.3	7.3	4.9	7.1	5.0	4.5	4.3	3.7	52.3
	今、重要だと思う	5,000	14.1	9.8	17.4	24.3	9.2	14.7	14.9	9.4	7.4	8.7	3.4	12.9	5.9	39.1

※保護者世代についても、自分の受けた性教育についての回答。

一方で、「当時もっと知りたかった内容」では「避妊」や「妊娠・出産」が高く、「今、重要だと思う内容」では「避妊」「妊娠・出産」に加えて、「性的同意・性暴力」も上位に挙がった(図表2)。

この結果は、性教育に求められる内容が、単にからだのしくみを知ることにとどまらず、自分と相手の心身を守るための具体的な知識や判断力、相談につながる力へと広がっていることを示している。自由記述回答においても、教わった内容が薄かった、性的同意や性暴力、ジェンダー平等について学ぶ機会がなかった、もっと早い時期から知りたかったといった声が見られた。

性教育が「知識の伝達」ととどまるのではなく、子ども・若者が日常生活の中で、自分のからだや関係性を守るための実践的な学びであることが求められていた。

小学校段階から教え始めてほしい項目も

性教育を始めるのに適切な時期についても、興味深い結果が得られた。「避妊」「性的同意・性暴力」「ジェンダー平等」「性の多様性」など全12項目において、約7割が小学校・中学校までの開始が適切と回答があった。特に「妊娠・出産」「避妊」や「性的同意・性暴力」は中学生からの開始を支持する声が約4割と最多

で、小学校からの実施を求める声も約3割となった(次ページ図表3)。

さらに、保護者層では、より早期の性教育を求める傾向があり、約8～9割が「妊娠・出産」「避妊」「性的同意・性暴力」を含む幅広い性教育を中学校までに教え始めるのが適切と回答があった。この結果は、発達段階に応じて早期から段階的に学ぶことへの社会的ニーズがあることを示している。

たとえば、低年齢では、からだの大切さ、プライベートゾーン、自分と相手の境界線、嫌なことを嫌と言ってよいこと、困ったときに相談してよいことなどを学び、年齢が上がるにつれて、思春期の変化、月経や射精、妊娠のしくみ、避妊、性感染症、性的同意、性暴力、インターネット上のリスクなどを具体的に扱っていく。こうした段階的な学びへの期待が今、広がっていると考えられる。

性の信頼できる情報源や相談先の不足

信頼できる情報源と相談先の不足も、今回の調査から見た大きな課題である。性に関する情報の入手先として、最も多かったのは「インターネット」であった。しかし、最も信頼する情報源を尋ねると「特になし」が最も多い結果となった。

図表3 Q 次の内容について、「教え始めるのに適切だと思う時期」をそれぞれ1つ選んでください。

			小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生	学校では 扱うべきではない		
n =									
内容 (%)	体の変化・思春期	5,000	18.3	51.9			16.8	3.7	9.3
	性器・性機能	5,000	9.2	45.4			29.4	6.1	9.8
	妊娠・出産	5,000	5.0	33.3	41.9			10.2	9.6
	避妊	5,000	3.6	26.1	46.7			13.9	9.7
	中絶	5,000	3.5	23.3	46.6			15.4	11.1
	性感染症	5,000	3.7	24.0	46.9			15.6	9.8
	性的同意・性暴力	5,000	5.6	23.9	43.7			16.4	10.5
	ジェンダー平等	5,000	11.5	27.7	33.7			14.0	13.0
	性欲との向き合い方	5,000	4.6	24.4	44.4			14.2	12.5
	性の多様性／恋愛	5,000	7.2	27.3	38.7			14.2	12.5
	インターネット・SNSの使い方	5,000	18.2	35.3			28.9	7.7	10.0
	性についての相談先	5,000	9.1	33.0	37.3			10.1	10.5

若者世代では、SNS や学校・教員を情報源とする割合も高かったが、インターネットや SNS 上には、正確な情報だけでなく、誤情報、偏見を含む情報、性的な加害や搾取につながる情報も混在している。必要な情報にアクセスできる環境は広がったように見えても、何を信頼してよいかわからない状況がある。

相談先については、さらに深刻な結果が示された。性に関する相談先として「特になし」と回答した人が6割を超え、「医療機関」は6.5%、「学校・教員」は3.6%と、いずれも1割に満たなかった。自由記述回答では、誰に聞いてよいかわからなかった、家族には相談しにくい内容もある、インターネットでは正確な回答が得られるか不安、対面では言いづらい、といった声が寄せられている。性に関する悩みは、妊娠不安、性感染症、性暴力、交際関係、セクシュアリティやからだの変化など、生活や健康に直結するものである。それにも関わらず、安心して相談できる先が見えにくいことは、若者の孤立や支援へのアクセスの遅れにつながりかねない。

この点からも、性教育は知識の提供のみにとどまらず、信頼できる情報源を知ること、困ったときの相談先を具体的に知ること、医療や支援につながる方法を学ぶことも、性教育の重要な一部である。学校、保健

室、スクールカウンセラー、地域の医療機関、相談窓口、民間団体などが連携し、子ども・若者が「相談してよい」「助けを求めてよい」と感じられる環境を整える必要がある。

はどめ規定、包括的性教育の認知

一方で、学校で扱える性教育の内容には、制度上・運用上の制約もある。今回の調査では、学習指導要領における、いわゆる「はどめ規定」についても尋ねた。「はどめ規定」とは、たとえば中学校保健体育において「妊娠の経過は取り扱わないものとする」など、性に関する学習内容の取扱いを制限する記載を指す。調査では、その認知率は18.8%にとどまり、多くの人には十分に知られていないことがわかった。

しかし、はどめ規定に関する意見では「必要な教育を妨げている」とする回答と、「制限は一部残しつつ、性交・避妊は教えるべき」とする回答を合わせると、より踏み込んだ教育を求める声が過半数を占めた。一方で「制限は必要」とする回答は1割未満であった。これは、一般市民の間でも、子ども・若者に必要な知識を保障する観点から、現在の性教育の内容を見直す必要性が一定程度共有されていることを示している。

包括的性教育についても、認知はまだ十分とはいえ

ない。包括的性教育の認知率は27.6%にとどまり、7割以上が「知らない」と回答した。一方で、学校教育における包括的性教育の導入・拡充については「賛成」が「反対」を大きく上回った。包括的性教育はからだや生殖のしくみだけではなく、人間関係、性的同意、ジェンダー平等、性の多様性、暴力の防止、ウェルビーイングなどを含む幅広い学びである。言葉自体の認知はまだ低いものの、その内容や意義が伝われば、必要性を理解する人は少なくないと考えられる。

緊急避妊薬の市販化の認知度は約4割

また、本調査では緊急避妊薬についても尋ねた。2026年2月から緊急避妊薬の一部薬局で処方箋なしでの販売が始まったが、その認知は約4割にとどまり、必要となったときに知りたいこととしては、販売場所や販売価格が多く挙がった。緊急避妊薬は、避妊に失敗した場合や性暴力被害など、妊娠の可能性がある性行為の後に、72時間以内に服用することで高い確率で妊娠を防ぐことが期待できる重要な選択肢である。しかし、その存在や入手方法を知らなければ、必要ときに利用することはできない。緊急避妊薬の情報もまた、性教育や相談支援の中で、正確かつ広く伝えられる必要がある。

今後の課題と提言

今回の調査から、世代を超えて、体系的な性教育を求める声が広がっていることが明らかとなった。今後求められるのは、第一に、小学校・中学校段階から妊娠・出産、避妊、性的同意・性暴力を含む幅広い学習を、発達段階に応じて体系的に充実させることである。2027年頃を見据えた次期学習指導要領の改訂に向けた議論の中で、現状に根差した見直しが進むことを願う。

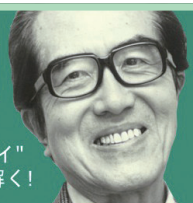
また、性教育に関する教員研修、外部専門職との連携、相談・医療につながる仕組みなど、子どもに関わる大人たちが学び、ネットワークを強化し、子ども・若者が相談しやすい地域づくりも重要である。若者や保護者は、自分と相手を大切に、困ったときに助けを求める力を育むための、より実践的で、権利に根ざした、信頼できる性教育を求めている。その声を今後の教育政策と現場実践に反映させていくことが必要である。

調査レポート全文・グラフ等の資料はこちら

<https://x.gd/tZawM>



「朝山新一の性科学と性教育」 JASE e-booklet 無料公開中



"日本のキンゼイ"の功績をひも解く!

JASE e-booklet『朝山新一の性科学と性教育』は無料公開中!

<https://jase.faje.or.jp/book/asayama/>

「日本のキンゼイ」と呼ばれた性科学者・朝山新一（元・大阪市立大学名誉教授、1908～1978年）。1974年から始まった「青少年の性行動全国調査」の礎を築いた、日本の性教育・性科学の発展を牽引した第一人者です。博士の功績をまとめた論文集が、電子ブックレットとして刊行され、日本性教育協会のウェブサイト上で公開されました。「第1回青少年の性行動全国調査」（1974年）以前の調査票資料や、性教育授業の教材として作成されたスライドなどの図版も多数掲載されていて、性科学、性教育に関心のある方に必見の書です。

【主な内容】

- 第1章 世界のセクソロジーにおける朝山新一の位置（東優子 大阪公立大学教授）
- 第2章 朝山新一の性行動調査（片瀬一男 東北学院大学名誉教授）
- 第3章 朝山新一の性教育スライドに込めたる思い（宇野賀津子 公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター主席研究員）

資料解説 1974年「第1回青少年の性行動全国調査」調査票の構想と作成（片瀬一男）

資料 『性の署名』 記者あとがき（全文転載）

コラム ①『性の署名』にまつわるエトセトラ（東優子） ②朝山新一による成人期の性行動調査（片瀬一男） ③性の決定をめぐる、ジョン・マネーと朝山新一の関係（宇野賀津子） ④可視化された性とからだ—科学的性教育とははじめ（池上千寿子 特定非営利活動法人ぶれいす東京顧問・理事）



第3章「朝山新一の性教育スライドに込めたる思い」より。PC、スマホ両方に対応している。

めぐみ を 生きる

負けない、めげない、あきらめない

【第28回】数学の教員でなければならない

前回は話題が、数学とジェンダーの関わりから脱線してしまいました。今回は、私が「中学校の数学の教員」である理由、そして数学という教科を通した学びが、差別や偏見に向き合うためにとても有益だと考える理由についてお話ししたいと思います。

教員になった経緯は、この連載の第3回、第4回でお伝えしました。世の中を変えるには、ほとんどの大人が通過する学校教育を変えたい。自分が最も苦しくて悩んで自分を封じ込めていた中学生時代に関わりたい。そして、公平や平等について教科全体を通して教えることができる数学という教科に関わりたい。このような願いの連鎖が、一度は二度と戻らないと思っていた学校という空間の中で、本当の自分らしさを隠しながらも辞めたいと思う気持ちを振り払い、そしてカミングアウトした後も様々な取組に邁進する原動力になってきたのだと感じます。自分自身の存在意義やアイデンティティのようなものを「中学校の数学の教員でなければならない」という位置づけの中に見いだしていたからこそ、私にとって数学科の教員になるということは、単なる職業選択ではなく、自分自身が生きる意味を見いだす過程を担ってきたのです。

ジェンダーに関することだけではなく、世の中にある様々な偏見や不平等、不公平に気づき、声を上げられる生徒を育成するために、数学の学習内容と、授業中の対話の両面から、アプローチを図ることができると考えています。教科書で示される学習内容から、知識や技能を習得させるだけでなく、どのような価値を生徒の中に育んでいくのが、教員に関わる大きな意味だと考えます。

数学の授業中の対話では「根拠を示し、論理的に、わかりやすく」伝え合うことが基本です。その最たるものが証明問題ですが、証明に限らず明確な根拠に基づいて思考・判断・表現を進めていくことが常に求め

Profile 永井 恵 (NAGAI Megumi)

トランスジェンダーとしての生き方をオープンにし、公立中学校の教員として生きる。多様な性のあり方やジェンダー平等の取組を、人権教育の視点から続けている。



られます。根拠が自らの中で明確であるからこそ、そこにあるはずの解にたどり着けない不安にも向き合うことができます。「根拠を自分の内に持つ」大切さを常に説くことは、不安や恐怖を利用するデマやフェイクに向き合う冷静さを養うことにつながります。また「逆を考える」ことで立場を入れ替えてみる大切さを考えさせたり、図形の分類場面等では見方を変えることで分類や区別、マジョリティとマイノリティなど、どのようにでも変わることを考えさせたりできます。他にも、問題の「条件替え」では、「ちがひ」に注目することと同時に、変化しない「共通していること」に注目することが問題解決への糸口になります。これは、共生社会を生きるための大切な視点の切り替えを意識させることにつながられます。

中学校数学で取り扱う問題では、ほとんどの解が一意に定まります。ここで、解の一意性を認めることと、解法の多様性を認めることは互いに矛盾しません。物事をきちんと弁別して尊重し合うための対話の基盤として、前提や定義を確認し共有する重要性はいうまでもありません。「あなたのいう『差別』は私のいう『差別』とは違う」「差別するのも多様性として認めるべきだ」といった前提や定義をすり替えるような議論に振り回されず冷静に対話を重ねる姿勢を育むことができます。自分も他人も偽らず説得することで前に進んでいく民主主義の価値を様々な場面で伝えていくことが今、求められていると思います。

数学が持つ厳密さから生じる不安を拭い去るために、知的安全性の確保の工夫は必要不可欠です。時には教師が意図的に間違えたりして、「間違いを提供すること」を積極的に促し丁寧に扱うこと、例えば40人中39人がYesといっても1人のNoに向き合うことを大切にしています。

どんなに正しいと思うことでも、声を上げるには勇気が必要です。数学の学習を通して身につけていく思考力と粘り強さは、その勇気を振り絞るための支えになります。相手がどのような権威や権力を持っていても「違うものは違う。なぜならば……」と言える、不公平・不平等に声を上げるスキルと態度を、数学の学びと対話を通してエンパワメントし続けたいと思います。

通史的記述を超えた魅力

「平等を求めて声を上げた人々の闘い」とサブタイトルがついた『LGBT ヒストリーブック 日本編』が自宅に届いたのは4月末だった。3年ほど前に出版準備のためのクラウドファンディングに協力していたので、発売前に入手することができた。いち早く読めることは嬉しいのだが、意外にも郵便受けには別々のゆうメールで2冊も送られてきた。

あれあれ？ クラファンでは確かに2冊購入で申し込んでいたが、1冊は自宅、もう1冊は図書館に配送されるはずだったのに。一瞬、何かの手違いかな……とも思ったが、どうもそうではなさそうだ。

本の末尾に掲載されている80人ほどの協力者リストには、なんと私の名前も入っている。つまり、もう1冊は協力者への謝礼ということで、図書館配送分とは別に送られてきたのだろう。

実は編著者の山縣真矢さんからは、1990年代のエイズに関する記述で問い合わせをいただき、2025年4月に何度かメールでやり取りをしたことがある。「よく調べられていて、私の知らないこともたくさんありました」とお答えし、ほとんどお役には立てなかったと思うが、事実確認の真摯な姿勢は伝わってきた。

クラファン分のもう1冊は図書館に送られているはずだ。お近くの図書館を訪れた際には（私の分かどうかはもちろんわかりませんが）、ぜひ探してほしい。早速、読み始めたものの、B5判376ページの大作である。編著者の山縣さんをはじめ、名うての執筆陣の文章は読みやすく、複雑な内容も丁寧に、しかも手際よく説明されている。それでも、遅読家の私が読み終えた頃には5月も終わろうとしていた。

鎌倉～江戸の武家社会の性愛文化から1960年代に至る第1章『歴史』をざっとおさらいで始まり、第2章「運動の萌芽」(70年代)、第3章「黎明期の運動とエイズの脅威」(80年代)、第4章「ネットワークの広がり」と存在の可視化」(90年代)、第5章「コミュニティ運動の高まりと政治への関わり」(2000年代)、第6章「“LGBT ブーム”～官民のLGBT 施策が大き

く進展～」(2010年代)と10年刻みの章立てで大きな流れを把握し、第7章「LGBTQ コミュニティの未来へ」(2020年代)と終章「希望に向かって」で締めくくられる。

その終章では、以前このコラムでも紹介した佐藤郁夫さんが登場する。2021年1月18日に亡くなった佐藤さんは特定非営利活動法人ぶれいす東京のスタッフとして活躍し、「結婚の自由をすべての人に」(同性婚)訴訟の原告の1人でもあった。

2019年4月15日には東京一次訴訟で証言台に立ち次のように語っている。終章から引用しよう。

「天国に逝くのは私の方が先だろうと思っていますが、最期の時は、お互い夫夫となったパートナーの手を取って『ありがとう。幸せだった。』と感謝をして天国に向かいたいのです」

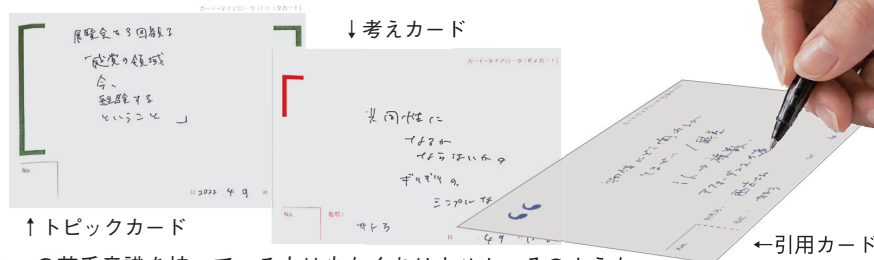
同性婚訴訟はいまも続き、終章は《私たちの闘いは、まだまだ続きます／怒りを力に変えて！／希望に向かって!!》と締めくくられている。

読後の感想を少しだけお伝えしたい。1980年代の終わりにエイズ取材を始めるまで、私には本書でLGBTと総称されている性的少数者への理解はほとんどなかった。その後、取材を通じて知り合った南定四郎さんや長谷川博史さん、あるいは同業者でもあった北丸雄二さんといった人たちが、やんわりと「そんなものではないよ」と教え諭してくれた。そうした心優しい指導のおかげで、「ああそうだったのか」と後になって気づくこともしばしばあったように思う。

本書に登場する人たちへの描写は、通史的な記述以上に魅力的だ。なかでも1994年8月の『第1回レズビアン・ゲイ・パレード in 東京』がどうして現在のTokyo Pride 2026につながるのか。90歳を超えた南定四郎さんは、体力と健康状態さえ許せば、パレードの先頭に立って歩く。それはどうしてなのか。何度も中断の危機に直面しつつ現在に至る紆余曲折をそれぞれの時期の担当者の証言を踏まえ、丹念に解き明かして見せたことは私のような者にも感動的ですからある。

What's Up?

“書く”“話す”“聞く”が循環する カード型対話ツール「カード・ダイアログ」



対話型ワークショップなどで、話すことへの苦手意識を持っている人は少なくありません。そのような場面では、書くことによって言語化のハードルを下げるができます。数年にわたって実験を繰り返し、2017年にリリースされた対話補助ツール「カード・ダイアログ」を紹介します。

参加者同士で対話を進めやすい仕組み

性教育の現場において、知識の理解と自分の実感の間には距離があるようです。だからこそ、本を読んだ後やプログラムの後に、互いの言葉を聞き、やり取りを眺め、言語化する時間が必要だと思います。カード・ダイアログが、そのような場づくりにも活用されています。

なぜ私たちは思っていることを話すのが難しいのでしょうか。カード・ダイアログは、話しにくいことを言葉にし、発言の偏りを減らし、「書く」「話す」「聞く」が循環するツールです。参加者同士で対話を進めやすい仕組みを備えています。自分の言葉を書く「考えカード」、本の引用も含めた他者の言葉を書く「引用カード」で、自分と他者の言葉を視覚的に区別します。加えて、会のテーマなどを書く「トピックカード」があります。これまで読書会、対話の会、会議、ふりかえりなどに使ってもらっています。

カードで話す／ルールは仕組みに任せる

基本的に、まずカードを書いてから、1人ずつ見ながら話をし、カードはテーブルに置いていきます。書いて読み上げるという手順を踏むため、発言のハードルは下がりますし、書かれた内容がベースになるので、話しすぎ、自己開示しすぎもある程度抑えられます。ルールとして提示されることが多い「相手の話をきちんと聞く」「自他の考えを区別し尊重する」ということが、仕組みとして織り込まれているため、場の空気を過度に読む必要もありません。

話を「眺める」

カードをテーブルに載せていくことで、後から並べて流れを見直しリフレクション（ふりかえり）を行う

ことや、後日続きを話すこともできます。交流会ではKJ法を使って分析することで、どう並べるかを趣旨に合わせてアレンジしています。話を「眺める」時間があることで、対話そのものを俯瞰的に見ることができます。

聞くことの循環

進行中、余裕があれば、誰かの話で印象に残った言葉を「引用カード」に、自分の中に浮かんだことを「考えカード」に書くことを勧めています。カードに書くことでその場に視覚化された声として残すことができます。他者の言葉を聞いて初めて自分の考えに気づくこともあるでしょう。また、自分が話しているとき誰かがカードを書いていると「聞いてもらっている」と感じる人が多いようです。

こうして、他者の言葉を受け取りつつ、自分の言葉を出すことが自然と繰り返されます。カード・ダイアログでは自分と他者の言葉を区別しながら、どちらも等価なものとして場に置きます。その言語化と引用の往復が、参加者を「聞く」モードへと近づけていきます。そうした場では、対話は自然と立ち上がってくるのではないのでしょうか。

【入手方法】

公式サイトからスターターキット（税込み550円）を購入すると、印刷用PDFと説明動画が付属し、以降印刷して繰り返し使えます。使用条件は説明書をご覧ください。<https://dialogue.mogubook.net/>

サトウアヤコ

アーティスト。「カード・ダイアログ」、「日常記憶地図」など複数の手法を開発、プロジェクトとして展開。展覧会、冊子の制作、大学での講義などを通して、言語化や媒介的なコミュニケーション、場所の記憶をめぐる実践と探求を続けている。<https://satoayako.net/>

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

夫婦の身体とこころの違いを知る

実は、絶版本である。先日、堀口貞夫先生からお電話で「あの本は絶版になって他の出版社が権利を買ったんだけど立ち消えになって……」と聞いた。絶版になった本を書評に挙げるのも……と憚られつつも、電子書籍あるいは古本であれば購入可能と確認し、18年前に出版されたこの新書を今改めて紹介したい。

まずは著者の紹介から。著者は、1933年生まれの産婦人科医・堀口貞夫先生（現在93歳）と、その妻である1930年生まれの同じく産婦人科医である堀口雅子先生（現在96歳）。お二人が70代後半のときに著した新書である。私は貞夫先生が院長を務め、雅子先生も非常勤で勤務していた婦人科のクリニックに、貞夫先生が院長を勇退されるまで、臨床心理士として13年勤務していたこともあり、お二人のひととなり、臨床への向き合い方、そしてジェンダーやセックスに対する態度などに直接触れながら、たくさんのご指導いただいた立場である。妻と夫の「対等」な姿のモデルは、私にとっては堀口夫妻であった。

本書はその2人の共著である。夫婦のセックスについて、ライフステージごとの身体変化とその時の男女の心理的機微の違いを理解するよう促すつくりである。たとえば、産後、女性は授乳間隔が安定しないという身体も大変で、胸を刺激すればお乳は出るし、何より眠くて少しでも休みたい。会陰切開した場合は縫った傷があるのでペニスを受け入れるのは大変な緊張がある。そんな中「ずっと気を遣って我慢していた！」とばかりにすぐに夫が求めると妻が拒否するのは当然であるものの、夫は実状がわからず、拒まれたことに着目して傷ついたり、あるいは痛そうだ、疲れていそうだと遠慮をし、そうこうしているうちにセックスレスになるという典型的な産後のセックスレスの

夫婦で読むセックスの本

夫婦で読む
セックスの本

堀口貞夫・堀口雅子

堀口貞夫・堀口雅子 著

発行 かなめ出版

定価 750 円（税込）形式：電子書籍

様子をわかりやすく描いてくれている。18年前から変わらぬ産後のセックスレスのパターンである。ここまでをどちらかというと妻寄りの視点から貞夫先生がふれた後、雅子先生が「我慢している夫の『気持ち』はわかってあげてほしい。『気持ち』は受け入れても、『行為』は受け入れられないときにどうするかということを考えてみましょう」と今度は夫寄りの視点について水を向ける。夫である貞夫先生が妻の立場を、妻である雅子先生が夫の立場を尊重する視点を投げかけるのも、実に堀口夫妻らしい対等な語り口だ。

最終章には命の誕生の現場に立ち会う産婦人科医ならではの印象的な語りも。セックスに後ろめたさを感じさせる社会背景の中、「妊婦さんはセックスをしましたと言って歩いているようなものだ」と思っていた思春期の貞夫少年。その後、数えきれないほどのお産に立ち会い、時に亡くなる赤ちゃんに直面してしまう。圧倒的な現場を前に、新しい命を宿してこの世に送り出すまで、その命を抱え込んでいる存在の尊さを強く印象付けられる毎日であった、という。

雅子先生の体験にも心が動かされる。雅子先生は「医局に女は要らない」と教授に言われる男尊女卑の医学部の世界で「朝からぶっ通しで外来に出て帰宅して夜中お産に呼び出されても嬉々として病院に向かうほど現場大好き」な産婦人科医。しかし、自らの妊娠・出産・育児で仕事が中断したときは、とても意味のある時間だったと今は思えるけれども、当時は、枕で涙を濡らすほどつらく悲しかったと吐露している。今になって、貞夫先生が息子の妻の産前産後から「ようやく当時の私の大変さをわかってくれたよう」に思え、50年以上のキャリアのある産婦人科医でさえこうなのだから、読者の皆さんも焦らず夫婦の関係を見直してねと温かく励ましてくれる。夫婦関係とセックスに関心ある人、見直したい人に強くお勧めしたい。

（明治大学准教授 佐々木掌子）



セックスの倫理学
ニール・マッカーサー 著 江口聡 訳
名古屋大学出版会 2026

フェミニストカウンセリング研究 Vol.21
日本フェミニストカウンセリング学会
「フェミニストカウンセリング研究」編集
委員会 編 日本フェミニストカウンセ
リング学会 2026

日本エイズ学会誌 Vol.28 No.2
日本エイズ学会 2026

子どもの性の多様性
セクシュアル・アイデンティティとジェン
ダー・アイデンティティの探求を支えるた
めに
佐々木享子 著 ちとせプレス 2026

**第55回セックス・カウンセリング研修会
抄録集**
セックス・セラピーの基礎
日本性科学会 2026

**わたしの体におこること なんでもガ
ールズトーク!**
イダ 作 かみやにじ 訳 高橋幸子 日本
語版監修 偕成社 2025

**二重らせんの私 生命科学者の生まれる
まで**
柳澤桂子 著 早川書房 1995

女性の権利の歴史
岩波市民大学 人間の歴史を考える 8
辻村みよ子 金城清子 著 岩波書店
1992

日本で女性研究者が増えない理由
アカデミアに残るジェンダー問題
中野円佳 編著 大月書店 2026

日本女性の歴史
女のはたらき 角川選書 237
総合女性史研究会 編 角川書店 1993

翻訳から広がる日本語
女ことば・男ことば・疑似方言
中村桃子 著 白澤社 2025



**トランスジェンダー、クィア、アライ、仲
間たちの声**
小島あゆみ 著 かもがわ出版 2025

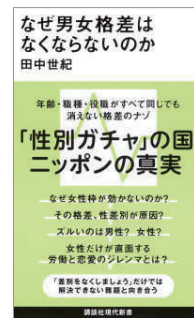
パンフレット
職場のための HIV ハンドブック 正しく
知る、冷静に支える。HIV とともに働く、
当たり前のために 対象：人事・
上司および産業保健関係者
研究代表者 横幕能行 分担研究者 生島
嗣 厚生労働科学研究費補助金（エイズ
対策政策研究事業）職域における HIV 感
染症に関する知識の普及啓発の促進に向け
た研究 2025

いま知りたい「性」のはなし
LGBTQ と生殖の生物学 TTS 新書
麻生一枝 著 東京図書出版 2026

ジェンダー・ジャスティス
社会の無意識が生み出す性と権力の構造
幻冬舎新書 797
内田舞 著 幻冬舎 2026

多様性とう向き合うか
違和感から考える
岩波新書 新版 2094
岩淵功一 著 岩波書店 2025

なぜ男女格差はなくなるのか
講談社現代新書 2793
田中世紀 著 講談社 2025



【夏季休室のお知らせ】

JASE事務局および資料室は、8月10日(月)～14日(金)の間、休室とさせていただきます。その前後の土日祝日も休みとなります。8月17日(月)の資料室の予約は、8月7日(金)16:30までに電話にて連絡ください。

●新着図書についてはJASEウェブサイト「資料室」ページでもご覧いただけます。

<https://jase.faje.or.jp/reference-room#new>

資料室について

JASE資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約10万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧予約】事前に電話で予約が必要〔tel 03-5801-6788〕。貸出業務は行っておりません。

【開室日・時間】月曜日～金曜日 11:00～17:00

【休室日】土曜日、日曜日、祝日、年末年始 ※その他、臨時に休室することがあります。

<https://jase.faje.or.jp/reference-room>

→ 資料検索





第54回全国性教育研究大会(岡山2026) 第40回岡山県性教育研究大会

(3次案内)

<基本テーマ>

地域に広がる性教育を繋ぐ
ー 生と性に向き合う性教育の醸成 ー

日 程 令和8年8月1日(土)・8月2日(日)
会 場 ピュアリティまきび(JR岡山駅より徒歩約10分)
大 会 長 野津有司(全国性教育研究団体連絡協議会理事長)
副大会長 西山俊吾(岡山県性教育協議会会長)
協 賛 日本性教育協会(JASE)
後 援 文部科学省, こども家庭庁, 全国小・中・高校長会等,
岡山県・岡山市教育委員会, (公社)日本看護協会, 他(予定)
参 加 費 一般 7,000円, 学生 3,000円

8月1日 受付 9:00	9:10～11:50 全体会 300名 ・開会行事 ・基調講演(予定) 「学習指導要領に基づく性に関する指導」 ・講演(予定) 「こども家庭庁におけるプレコンセプションケアに関する取組」 ・報告 「中学校・高等学校における性教育の実施状況の全国調査(速報)」	昼食	13:30～16:00 分科会Ⅰ(課題別)及び講座 ・「性別違和」部会 70名 ・「性被害・性暴力」部会 70名 ・「性に関する個別指導」部会 70名 ・講座 40名 「外部講師のためのスキルアップ」
8月2日 受付 9:00	9:20～11:50 分科会Ⅱ(発達段階別) ・「幼児期」部会 30名 ・「小学校」部会 70名 ・「中学校」部会 70名 ・「高等学校」部会 70名 ・「特別支援教育」部会 50名	昼食	13:00～15:00 サービスプログラム 60名 「性に関する教材と指導方法の工夫」

※ プログラムの詳細は、こちらをご覧ください。



※ お申込みの詳細は、次頁をご覧ください。

第54回全国性教育研究大会(岡山2026) 第40回岡山県性教育研究大会

参加申込み等について

1. 申込み方法 ・ 下記「大会申込みサイト」よりインターネットにてお申込みください。
<https://forms.gle/Sa6DTWDeAK2eJVps8>
 ・ 電話、FAX での申込みは承りません。
 ・ 申込み受付後に、あなたが参加申込みサイトに入力したメールアドレスへ「第 54 回全国性教育研究大会 回答受付の通知」が自動送信されます。
 ・ 参加費の振込みは、7月 21 日(火)までをお願いします。



<振込先> 全国性教育研究団体連絡協議会 会計担当 柳瀬さち子

- ① 現金またはご自身の「ゆうちょ口座」から送金する場合
 【記号】15420【番号】38536771

② ゆうちょ銀行以外の金融機関から「ゆうちょ口座」へ送金する場合
 【店名】五四八(ゴヨンハチ) 【店番】548 【預金種目】普通預金
 【口座番号】3853677

- ・ 申込み時に登録した個人名で、振込んでください。
- ・ 法人口座等から振込む場合も、登録した個人名を明記してください。
 ※ 難しい場合は、メールにてお知らせください。
- ・ 振込手数料は各自負担となります。
- ・ 参加費の入金後の返金はありません。
- ・ 「大会参加証・参加費領収書」は大会当日の会場受付にてお渡しします。
- ・ 各分科会、講座、サービスプログラムの参加については、定員等の都合により希望する部会等に参加できない場合があります。その際は、事前申込締切日までに、登録されたメールアドレス宛に連絡いたします。
- ・ 大会当日に参加申込みを希望する方は、受付にて手続きをお願いします。その場合にも定員等の関係で、希望する部会等に参加できないことがあります。

2. 参加費 一般: 7,000 円 学生: 3,000 円

3. 申込み締切 令和 8 年 7 月 21 日 (火)
 ※ 7 月 22 日(水)以降は、会場での当日受付・参加費支払いとなります。

4. 問合せ先 全国性教育研究団体連絡協議会(全性連) 事務局長 福迫 潮
 E-mail: zenseiren@galaxy.ocn.ne.jp

【会場の案内】 ピュアリティまきび
 〒700-0907 岡山県岡山市北区下石井2-6-41
 TEL: 086-232-0511

【交通アクセス】 JR 岡山駅から南へ700m(徒歩約 10 分)
 駐車場: 約 100 台 収容可能

◎ JASE性教育研修セミナー 2026 ◎

学校・家庭での性教育の課題を科学する

～その実態と連携に向けた探究～



性教育は、しばしば突出した傾向や印象によって語られがちです。本講座では、そのような印象論ではなく、調査のエビデンスを基にして、現代日本の性教育における課題を科学的に考察していきます。根拠となるデータは、日本性教育協会が2023年に実施した第9回青少年の性行動全国調査および2021年度から登壇者グループが実施してきた中学高校の学校教員と保護者を対象とした性教育実態調査です。その分析から見てくる、今現在の学校性教育・家庭性教育の様々な課題を提示します。新たな性教育の取組に向けた一歩となるヒントが、ここにあります。



プログラム

《序論》

性教育の課題を科学するために——青少年の性行動全国調査と関連調査の展開
林 雄亮（武蔵大学社会学部教授）

《講演①》

日本の学校での性教育と国際セクシュアリティ教育ガイダンス
田村晴香（岐阜大学医学部助教）

《講演②》

学校における性教育の現状について——保護者ならびに外部講師との連携の観点から
石川由香里（立正大学文学部教授）

《講演③》

家庭における性教育のあり方と家族関係
苦米地なつ帆（武蔵大学社会学部准教授）

《講演④》

子どもの性教育をめぐる保護者の意識——何を、いつ教えるべきか、そして何に悩んでいるのか
林 雄亮（武蔵大学社会学部教授）

《トークセッション・Q&A》

座長・加藤秀一（明治学院大学社会学部教授）＋登壇者

2026年

8月8日

（土曜日）

13:00～17:00

（受付12:30）

主 催

一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会

会 場

一ツ橋センタービル 12 階 東京都千代田区一ツ橋 2-4-6
東京メトロ半蔵門線／都営新宿線／都営三田線「神保町」駅 A8 出口 徒歩 1 分

対 象

教育、保健、看護、医療関係者、学生、「性」「教育」「セクソロジー」に関心のある方

参加費

1000円（抄録代含む）

定 員

100名（先着順・事前予約制）

後日、アーカイブ配信も実施予定
（視聴申込みは改めてご案内します）

申し込み方法

● Peatix の申込みフォームより事前申込み

右の QR コードから Peatix の申込みフォームへ。

または日本性教育協会（JASE）のホームページ

<https://jase.faje.or.jp/> のトップページのバナーから。

※自己都合によるキャンセル時の返金には対応していません。



一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-3 富山房ビル 5 階 03-5801-6788

(主催) SEE(Sexuality Education & Empowerment)

SEE 性教育アカデミー2026 対面セミナー in 函館

ここからはじめる包括的 セクシュアリティ教育

日時：2026年9月6日（日）

10時～16時30分

会場：函館中央病院 講堂

北海道函館市本町33-2

参加費：6500円（書籍代込み）

*書籍をすでにご購入いただいている方には、参加費5000円のチケットをご用意しております。

*本ワークショップは「ここからはじめる包括的セクシュアリティ教育（日本評論社、2026年2月刊行、2750円）をテキストに使用します。書籍は当日会場でお渡しします。



SEE性教育アカデミーでは、包括的性教育の実践を広めるうえで、対象者の行動を変えようとするのではなく、支援者や教育者が自分の考えや感情に気づき、対話による関係性を築けるようになることを重視してセミナーを開催しています。皆様と一緒に学びを深めることを楽しみにしております。

スケジュール

9:45 受付開始

10:00 セクシュアリティ教育とSAR

12:00（昼休憩）

13:00 ワーク1：

境界線と性的同意

14:20 休憩

14:35 ワーク2：

性の価値観と態度の見直し

15:55 みんなでcoffee talk

（SEEメンバーと石倉亜矢子先生）

16:30 閉会

申し込み

Peatixからお申し込みください

<https://see-book2.peatix.com>

講師（SEEメンバー）

東優子（大阪公立大学大学院）

野坂祐子（大阪大学大学院）

吉田博美（大阪公立大学大学院）

ゲストスピーカー

石倉亜矢子Dr.（函館中央病院）

SAR(Sexual Attitude Reassessment)

とは、性に関する教育や支援に関わる人が、「性に関する自己の価値・態度」と向き合い、再構築するための研修プログラムです。性教育や性の支援等に関わる実務家・関心のある方はどなたでもご参加いただけます。

(協賛) JASE(日本性教育協会)

思春期保健 指導者研修会

正しい知識があるのに、専門職なのに、
なぜ話が伝わらないの？

子どもたちを笑顔にするお話しをしてみたいと
思いませんか？
子どもたちの心に響くお話しをしてみたいと
思いませんか？

コツさえつかめば、誰にでもできるのです。



01

視点が変わる

どうして今までの話では
伝わらなかったのかということが
わかります。

02

相手の心に響く話ができる

たった2日間で、
伝えたい人に伝わる話ができるよう
になります。

03

仲間に支えられる

本音で話ができる仲間の
サポートを受け、挫折することなく
やり遂げる力が養われます。

開催日 2026年 10/25(日) 10/26(月)

時間 10:00 開始 翌日16:00 終了予定

参加費 研修会 35,000円 懇親会費 6,000円(税込)

場所 神奈川中小企業センタービル

神奈川県横浜市中区尾上町5-80
(地下鉄・JR関内駅徒歩5分)

講師

岩室 紳也

年間100回以上の講演で全国を
飛び回る講師の専門家

北山 翔子

「神様がくれたHIV」の著者

宮崎 豊久

インターネットの専門家

お申込み・詳細はこちらから →



<https://iwamuro.jp/shsk/>

第17回世界性の健康デー記念イベント2026 in東京 東京性教育研修セミナー 2026夏

9/6(日)
10:00～
16:00

Every Body／あらゆる身体

「世界性の健康デー」は、2010年から性の健康世界学会（WAS）が提唱しているメモリアルデー。毎年9月4日を「世界性の健康デー」と定め、性の健康と権利について考え推進していく日とされています。世界中のWAS会員が趣向を凝らした様々な取組を行います。2010年の第1回から参加している東京大会は、今年もリアル会場での開催を予定しています。2026年の世界共通テーマである「Every Body／あらゆる身体」をテーマにしたセッションでみなさんをお待ちしています。

「Every Body／あらゆる身体」とはどういうことか？

『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』の根底には「人権」と「ジェンダー平等」が流れており、「誰のことも取り残さない性教育」が意図されています。では現実の世界で、性の健康と権利、ジャスティスやプレジャーへのアクセスは、誰のことも取り残さず、誰にでも平等に開かれているのでしょうか？「子どもへの性教育は寝た子を起すことなので情報を遠ざけよう」「高齢者には性欲は無いから性の情報は不要」など、平等に開かれているとは言い難い事例は枚挙に暇がありません。そして平等ではないこととして「子どもだから」「高齢者だから」という、その人の身体的特徴が挙げられます。AIが社会生活の中に入り込んだ2026年にあって、身体を持つ人間として、今一度この問題に向き合ってみませんか？

会場：東京都千代田区・明治大学 駿河台キャンパス（予定）
（JR・東京メトロ御茶ノ水駅から徒歩）

参加費：一般 2,000 円、学生 1,000 円（学生証の提示必須）

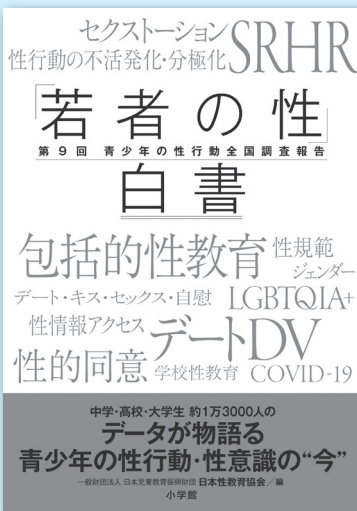
主 催：世界性の健康デー東京大会実行委員会
（powered by 性の健康イニシアチブ）

協 賛：日本性教育協会

申込先：事前申込み制



詳しくは、<https://sexualhealth-initiative.org/wshtokyo2026>



小学館より好評発売中！

「若者の性」白書

—第9回 青少年の性行動全国調査報告—

ISBN-978-4-09-840247-2

一般財団法人日本児童教育振興財団内

日本性教育協会・編

A 5判 270 頁 本体 2,700 円＋税

書店で
ご注文ください！

2023年度に実施された「第9回 青少年の性行動全国調査」の調査結果をまとめた論考集。前回調査(2017年)から今回調査(2023年)までの6年で、現代の若者の性行動、性意識はどのように変容したのか。1974年の第1回調査から50年以上にわたって続けられている、国内外でも類例のない貴重な調査研究。性教育・性科学に携わる方、青少年にかかわる方に必携の1冊です。

主な内容

- 第1章 現代の青少年の社会環境と性行動 —第9回「青少年の性行動全国調査」の方法と概要—
- 第2章 学校での性教育と性に関する知識・態度・行動との関連
- 第3章 性的同意の認知と意思の確認 —青少年の現状と教育的課題—
- 第4章 暴力被害および性的被害の現状と性教育や性行動の経験
- 第5章 正しい避妊の実践における性情報源とジェンダー規範の影響
- 第6章 青少年の性感染症予防に関する知識・態度・行動
- 第7章 家庭環境・親子関係と青少年の性のかかわり
- 第8章 多様な若者文化と恋愛
- 第9章 青少年の性についての「悩み」—自由回答欄の内容から見えるもの—

「各章概要と
掲載されている図表」
をウェブサイトに
公開しました。



<https://jase.faje.or.jp/jigyo/research#overview>